



「北海道フワソソ2022」旭山レポート

6月18日(土)、19日(日)、「北海道フワソソ2022」が全道で行われました。

「フワソソ」は5年に一度、6月に日程を決めて全道いっせいに咲いている花を調べるもので、1997年に始まって今回で6回目となります。

旭山では4回目の参加、18日は旭山記念公園、19日は旭山都市環境林を調べました。今回は「フワソソ」について短くまとめてみました。

なお、調査対象はあくまでも「花」に限ったもので、調査場所の植物全体の種数ではありません。また、ササ以外のイネ目植物は調査対象外です。

■旭山で花を確認した植物の数・・・69種(花55、つぼみ9、咲き終わり5)

2017年調査では72種(花59、つぼみ9、咲き終わり4)、3種減っていました。(↑ヒトフサニワゼキショウ、外来種)

前回あって今回なかった花は、ツクバネソウ、サイハイラン、ミツバツチグリで、花期がずれたのではなくその前後の時期にも見つけることができず、一時的にせよなくなってしまったようです。

またコンロンソウが調査日には咲き終わっており、場所も減っていました。逆に前回なくて今回あったオニシモツケ(左写真)、都市環境林にありました。

■外来種(帰化植物)の数・・・23種

旭山は外来種の割合が高く、ちょうど1/3の33.3%でした。

なお前回フワソソで全道で記録された場所が多かった花1位シロツメクサ、2位セイヨウタンポポ、3位ムラサキツメクサ、4位ヒメスイバと外来種が上位4つを占め、在来種の最上位は5位のマイヅルソウでした。

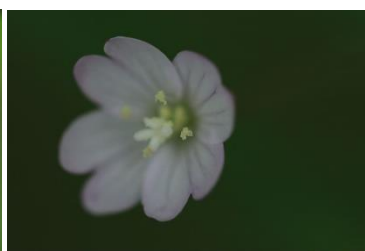
■25年で温暖化＝開花時期が早まっている？

そのマイヅルソウ、旭山では今回「花」は確認できなかったのですが、10年くらい前までは5月の下旬に開花していたものが、開花時期が10日から半月早くなり、今では6月に入ると花は見られなくなっています。

フワソソは毎回6月中旬に行われていますが、いわゆる「温暖化」により花期が早くなることで、データ上でも違いが出てくるようになるかもしれません。

調査結果は冊子にまとめて参加者に配布され、森の家でも閲覧できるようにします。詳しくはネット検索で。

※写真左から・ヤマウルシ＝樹木の花・エゾアカバナ＝初夏に多い花・コナスビ＝地面低く咲く花・ノハラムラサキ(外来種)＝今回意外と多いと分かった花



レストハウスぽるく通信 2022年7月

「旭山記念公園フォトコンテスト」にご応募をいただいた皆様、ありがとうございました！

旭山記念公園で見られる野鳥の美しさをしみじみ感じました。

お送りいただきました写真はどれも素敵で、数多くの作品の中から上位20作品を選ぶのは大変でした。

さて、選出した20作品を現在レストハウス「ぽるく」内に展示しており、ご来園の皆様にご投票いただき、最優秀作品を決定する予定です。すでにご投票された方もおられます、ありがとうございます。

まだ期間もありますので、ぜひご投票・ご鑑賞にお越しください！

※投票：～7/18(月/祝)、写真展示：～7/31(日)

※営業時間：日～木曜/10～17時、金曜・土曜・満月/10～21時

※本原稿に添付した展示写真は撮影者のお名前を伏せています。



旭山野鳥メモ③⑨ハクセキレイ

ハクセキレイ White Wagtail / Japanese Pied Wagtail *Motacilla alba lugens* スズメ目セキレイ科

北海道と本州で留鳥。背中が雄は黒だが雌は灰色。人に近い野鳥で、大型商業施設など建造物によく営巣し、トラックのエンジンルームやタイヤハウスに巣を作ることも話題になる。旭山では噴水広場周辺で時々見られるが、森がある西側エリアではめったに見られない。

かつて日本では北海道でしか見られなかったが、20世紀中頃から生息域をどんどん南に広げ、本州中部以東では当たり前に見られるようになった。現在も南進し続け、近年九州でも繁殖が確認された。

適応力の高い鳥で、道内では海岸から高山帯、市街地から農耕地や湿原と幅広い環境に生息している。基本開けた場所とその周辺にいるが、山地でもダム湖周辺など開けた場所があれば生息している。札幌では都心部でもよく見られ今やすっかりおなじみの野鳥。

尾を上下に振りながら地上を超速足で結構長い距離歩き、「ピピッ」と鳴きながら波状飛行する。そんな姿には愛嬌がある。こんな鳥を見たけど何？ という問い合わせが多い野鳥でもあり、なんだかほっとする。



2022年7月の野鳥トピックス

- ・コムドリ＝先月の旭山野鳥メモで取り上げましたが、6月中はちびっこ広場から学びの森の辺りに時々来ていました
- ・アオバト＝以前は6月中旬にミュンヘンの森の桜の木の実を食べに集まって来ていましたが、昨年そこにハシブトガラスが大挙して訪れて実を食べてからアオバトはめったに来なくなり、今年もそうでした
- ・クマゲラ：園内で主に早朝の観察情報が増えてきました
- ・シマエナガ：6月は巨木の谷に週に何度か親子数羽の群れが来ていて、一度来ると30分くらい辺りに留まっていることもありましたが
- ・オオルリ：巨木の谷と森の家付近で日に一度は見られています
- ・キビタキ：囀りを園内各所でよく聞きます
- ・ヤブサメ：幼鳥が見られることもあります
- ・モズ：6月中旬からちびっこ広場上で「キチキチ」と激しく鳴く姿がほぼ毎日見られましたが、近くの巣から幼鳥が巣立ち間近だったようで、下旬には幼鳥も見られるようになりました（まだ激しく鳴いています）
- ・チゴハヤブサ(写真)：ちびっこ広場付近で時々見られています
- ・アカゲラ：今年も幼鳥が見られています



旭山ミニ自然図鑑2022年7月 ～蝶の季節が本格化



○アカゲラ幼鳥、今年も出ました



○ニホンカナヘビ 迫力の顔アップ



○ウンモンテントウ ややレア種



○エゾコマルハナバチ雄 もこもこ



○ジョウザンミドリシジミ ゼフィルス



○クジャクチョウ 今年は夏に多い



○キベリタテハ 旭山ではレア！



○キバネセセリ 森の家に入ってくる



公式サイト

「アカゲラ通信」 第103号 2022（令和4）年7月8日発行
（公財）札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所
<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/> 〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目
電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10時～16時）FAX 011-200-0351